French Literature

フランス文学専修

フランス文学は、中世の騎士道恋愛物語や寓意物語から、20世紀のプルースト、カミュ、デュラス、そして最近のモディアノ、ウエルベック、アニー・エルノーにいたるまで、世界の文学・思想の先端に位置して、大きな影響を与え続けてきました。また、世界中に広がる旧植民地のフランス語圏文学も、その独自で刺激的な表現や世界観により、脚光を浴びつつあります。当専修では、このようなフランス文学の魅力をさまざまな角度から研究し、同時にその現代的な意義について考えます。授業では、ルネサンスから現代までの小説、詩、演劇、映画、絵画批評、哲学思想など、多岐にわたるジャンルの作品を扱います。多くの演習授業ではフランス語原文の読解の訓練をくり返し、フランス人教員の授業では会話や作文の練習を行いますので、卒業までに高度なフランス語能力が身につきます。卒論では、好きな作品一点のフランス語原文と徹底的に格闘し、関心をもった主題について自分なりの解釈を提示します。また、年に数回はフランス人研究者や作家の講演会を開催するなど、日仏の学術・教育交流も活発に行っています。在学中に交換留学制度を利用して数ヵ月から一年間フランスの大学で学ぶことも可能です。知的好奇心をふんだんにもって、フランス語を少しずつ学んでゆけば、狭い研究室がいつしか広い世界へ通じています。

http://www.gallia.jp/wordpress/（研究室）
http://www.gallia.jp/wordpress/gallia/（研究室刊行雑誌『ガリア』バックナンバー）

教員

やまじょう・ひろつぐ
山上浩嗣 教授
エリック・アヴォカ
Eric Avocat 特任准教授（常勤）
ひらみつ・あやの
平光文乃 准教授

何を学んでいるの？

フランス文学史講義
フランス文学史の主要な潮流、概念、作家について、ルネサンスから現代に至る名作を厳選して取り上げ、作品の原文抜粋や映像資料をも用いながら概説する。

フランス文学演習
代表的なフランス文学作品（小説、詩、哲学作品、文芸批評など）を取り上げ、フランス語原典を講読する。フランス語読解の基礎力を固めるとともに、テクスト分析の方法を学ぶ。

どんな授業があるの？

［講義題目］
フランス映画のなかのフランス史
「部屋」と室内装飾から読み解く
　フランス文学
モンテーニュ『エセー』入門
フランス文学のなかの哲学

［演習題目］
プルースト『失われた時を求めて』
　を読む
フランス語実践練習
ディドロ『サロン』を読む
パスカル『パンセ』を読む

教員が選ぶ印象に残った卒業論文

モーパッサン『脂肪の塊』における食欲の描かれ方
作中に登場する食べ物、飲み物の象徴的な意味を読み取り、人々の心理を、馬車内での幽閉という異常な状況の克明な分析により想像する。また、作者が食のあれこれを描くことで醜い人間の本性を暴露していることを指摘する。独自な着眼と丁寧な論証を備えた好論文。（選：山上浩嗣 教授）

［卒業論文題目］
ボードレール『パリの憂鬱』における理想の地
ラテン語とフランス語の動詞組織に関する
　比較言語学的考察
アンドレ・ブルトン『ナジャ』の心理的分析
ミラン・クンデラ『緩やかさ』における物語の
　3つの階層

フランスの文学と語学から、世界を見る。

学生インタビュー

なぜこの専修を選びましたか？

H　高校から外国文学を読んでいて、大学ではそれまでふれてこなかった仏文を選びました。かっこいいイメージもありましたし。フランス語圏は世界の各所に広がっていて、移民文学も面白いとも聞きました。

M　歴史を学ぼうと思っていましたが、大学の授業で違うかなと。授業のフランス語が楽しく、高校倫理でフランス人哲学者が面白かったことや、共通教育で山上先生のパスカルの授業を受け、仏文を選びました。思想や哲学も勉強できるところがよかったです。

いつ頃専修を決めましたか？

M　ガイダンスでは他専修を訪問しましたが、10月にフランス文学研究室を自主訪問して決めました。

H　一年の前期で決めました。他専修とも迷いましたが、研究室の雰囲気が良かったです。

授業の内容は？

H　最初は原文を読むのにとまどいました。語学的にも内容も難しいので。慣れてくるといい経験に思え、分からなくても先生と解釈のやり取りができることが分かったので、安心して取り組めるようになりました。他専修ではあまりない、大学院生と一緒に授業を受けることで、刺激になります。院生は自分の研究分野や知識に基づいた深い質問ができていて、勉強になります。

M　初めはこんな難解な文章が読めるのか、と思っていましたが、講読の授業では学生の発表が主体で、優秀な先輩たちの発表や資料を見て学ぶことで、自分も分かりやすく発表できるようになります。この点は少人数だからこそだと思います。たくさんの文章にあたるので、語学の上達も早いと思います。

H　アヴォカ先生のコミュニケーションの授業では、最初は難しくても、単語が分かると聞き取れるところが増えていくので、聞く・話す力も習得できていいと思います。

M　アヴォカ先生の映画についての授業のフランス語はとても分かりやすく、聞き取りやすいです。最初は分からなくても、蓄積に意味があると感じています。

H　山上先生の授業は高校までと全く違って、発表者と先生とのやり取りが面白く、なんでも質問に答えてくれるので好きです。小説、絵画論、哲学など、異なる主題も扱われていて面白いです。

M　山上先生のパスカルの授業は情報量が多く、キリスト教や同時代の背景も学ぶことができます。ディドロの授業は難解なフランス語ですが、絵画論なので絵を見ながら読解できるのも面白いです。平光先生のプルーストは長い文章、小説を読む楽しみがあります。急に感心する文章がでてきたり、時代背景の解説も多く、いろいろ解釈できて面白いです。

H　プルーストの授業では、自分でしっかり資料を作ったり、調べる機会になっています。平光先生のフィードバックはとても丁寧で勉強になります。

研究室の雰囲気は？

M　みんなよく話したり、コーヒーを飲んでいたり、自習をしたりして、ほのぼのしてます。

H　最初の驚きは、コーヒー・お菓子が食べられることでした。静かでいいですし、院生とのおしゃべりも勉強になります。また、卒論中間発表や大掃除のような集まる場があるのもいいです。その後の茶話会は先生方や院生のみなさんとも気さくに親しく話せます。年齢幅の広い交流の機会があります。

M　イベントとしては、フランス人研究者の講演があるのもすごいと思います。こんな研究をしてるんだと分かる、いい機会になります。

後輩に向けて一言

H　仏文は扱う幅が広いのでお勧めです。フランス語について敷居が高く感じることもあると思いますが、意外と何とかなりますし、どんなレベルでも得るものがあります。少しでも興味があればぜひ。

M　フランス語が少しでも好きなら、やれることがたくさんあります。興味の対象がたくさんあって、迷ってる人にもお勧めです。

［インタビュー協力］
M・Hさん、S・Mさん(2年)

授業風景（2022年12月）

授業風景（2022年12月）